

平成24年度建築コスト管理士短文記述試験問題と解答例

(各設問に対する解答例は、採点の基準として示すものであり、必ずしもこの限りではない。
採点は応用を効かせた方法にて行った。)

【問題1】

当協会が定めているコスト管理の役割には、主に下記の3種類があるが、そのうち1つを選び、その業務内容について50文字から200文字以内にて記述せよ。

〔解答例〕

1) 発注者支援

- ・事業のフィジビリティスタディ
- ・設計ならびに施工の発注支援（見積内容検討を含む）
- ・施工段階における予算管理・支払管理・設計変更処理
- ・維持保全段階における長期修繕計画の策定、維持修繕工事への対応

2) 設計者支援

- ・各設計段階での工事費やLCCの算定
- ・工事監理段階における設計変更対応

3) 施工者支援

- ・工事受注のための工事費の算定（見積）
- ・施工段階での原価管理

【問題2】

一般的な建築プロジェクトの生産プロセスにおけるフィジビリティスタディ（事業の採算性検討）について、50文字から200文字以内にて記述せよ。

〔解答例〕

事業経営的な側面からフィジビリティスタディ（事業の実現可能性調査）のなかで投資効果を評価・判断する経済性調査、あるいは実現可能な事業コストの算定等もコスト管理業務の重要な役割である。実現性の高いプロジェクトを遂行するには、プロジェクト初期段階での事業性検討についての的確な評価・検討が不可欠である。

【問題3】

建物の制振構造について、50文字から200文字以内にて記述せよ。

〔解答例〕

制振構造とは文字通り振動を制御する構造であり、振動を制御するための装置や機構が組み込まれた構造である。地震による揺れだけではなく、風や交通振動による揺れも制御することから「制振」と書かれる場合が多い。特に60m以上の建物について、長周期地震への対応が求められていることにも留意したい。

【問題4】

一般的な値入業務において、刊行物単価を使用する際の留意点を50文字から200文字以内にて記述せよ。

〔解答例〕

刊行物に掲載されている単価は、実際の取引価格を調査の上、掲載されているが、一部にはメーカーなどが公表しているカタログ単価（公表価格）も掲載されているので、使用する際は注意を要する。また施工数量や契約数量の大小（大口単価、小口単価など）による単価差や入手経路（店頭渡し、現場渡しなど）の各種条件設定も掲載ページの上段などに解説が記載されているので事前に確認することが必要である。例えば、別途運搬費を加算するなどの判断が必要になる場合もある。

【問題5】

正確な工事費を算出するにあたり積算実績データの補正が必要となるが、下記の3種類のうち1つを選び、その内容について50文字から200文字以内にて記述せよ。

- 1) 年度による差異の補正
- 2) 地域による差異の補正
- 3) 類似データ利用上の補正

〔解答例〕

- 1) 年度による差異の補正

建築物を建設した年度と現在との物価差をできるだけ正確に把握し、その差異を補正する。これは単純に物価だけの差を取り扱うのではなく、年度の違いによる設計内容の差異についても検討することが望ましい。また工期の長い建築物の建設年度としては、積算実績データなどの比較では着工年を用いるのが一般的である。

- 2) 地域による差異の補正

建築物の建つ場所による差を把握してこれを補正する。その際、都道府県別などの大まかな地域差だけでなく、市街地とそうでない場所の差など、立地条件による設計の差異にも注意を払わねばならない場合もある。

- 3) 類似データ利用上の補正

同一用途を前提とした既存の類似データを利用する際には、それぞれの場合に応じ次の補正が必要となる。

- ・規模による補正：延床面積の違いはどれくらいあるか
- ・形態による補正：高中低層など階数の違い、平面形状（矩形、特殊形など）の違い
- ・構造による補正：RC造か、SRC造か、S造か
- ・地盤による補正：杭の要・不要、地面は傾斜しているか
- ・各部仕様差の補正：対象となる詳細部分の仕様の差